



平成29年4月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年3月8日

上場会社名 株式会社アスカネット 上場取引所 東  
 コード番号 2438 URL https://www.asukanet.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 福田 幸雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役CFO (氏名) 功野 顕也 (TEL) 082-850-1200  
 四半期報告書提出予定日 平成29年3月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年4月期第3四半期の業績(平成28年5月1日～平成29年1月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年4月期第3四半期	4,029	4.6	649	7.9	652	7.9	444	11.7
28年4月期第3四半期	3,851	2.9	602	11.2	605	10.8	397	0.4
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年4月期第3四半期	26.54		26.41					
28年4月期第3四半期	23.74		23.54					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年4月期第3四半期	5,008	4,478	89.3
28年4月期	4,820	4,190	86.8

(参考) 自己資本 29年4月期第3四半期 4,472百万円 28年4月期 4,183百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年4月期	—	0.00	—	10.00	10.00
29年4月期	—	0.00	—	—	—
29年4月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年4月期の業績予想(平成28年5月1日～平成29年4月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,461	5.6	800	3.5	805	3.7	551	0.7	32.93

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料4ページ「四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

29年4月期3Q	17,464,000株	28年4月期	17,464,000株
29年4月期3Q	719,741株	28年4月期	730,141株
29年4月期3Q	16,737,298株	28年4月期3Q	16,752,184株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の数値は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注記事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府の景気対策や日銀の金融政策の継続により全体的に緩やかな回復基調で推移しておりますが、一方で、中国経済を中心とした新興国の景気減退や英国のEU離脱、米国の新政権への移行などにより海外経済は先行き不透明な状況となっております。

このような状況のもと、当社では、既存事業での着実な成長と、新規事業への先行投資のバランスに配慮して、事業を推進してまいりました。

事業内容としては、景気動向に左右されにくい葬祭市場に対し遺影写真等画像映像のデジタル加工、通信出力サービスを主に提供するメモリアルデザインサービス事業、1冊から本格的写真集という新しい写真のアウトプット手法を提案するチャレンジングなビジネスであるパーソナルパブリッシングサービス事業、空中結像という今までにないユニークな技術で、新しい市場を創造し、夢の実現を目指すエアリアルイメージング事業、それぞれに位置づけや特色が異なる三つの事業を展開してまいりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### (メモリアルデザインサービス事業)

当事業におきましては、主力である遺影写真加工収入が第1四半期は苦戦したものの、第2四半期以降は回復傾向にあります。ハード機器や額の売上も着実に増加するとともに、動画などの葬儀演出関連サービスの売上も増加いたしました。

利益面につきましては、広告宣伝費や採用関連費が増加したものの、相対的に利益率の高い遺影写真加工収入が堅調だったため、セグメント利益も順調に計上いたしました。

その結果、売上高は1,793,240千円（前年同四半期比104.0%）、セグメント利益は584,951千円（前年同四半期比105.0%）となりました。

#### (パーソナルパブリッシングサービス事業)

当事業におきましては、プロフェッショナル写真市場では、自社営業による新規顧客の獲得や既存顧客への新製品の提案を進めるとともに、ワークショップの開催や写真セレクトアプリのリリースなども行ってまいりました。その結果、プロフェッショナル写真市場向け売上は順調に推移しました。

一般消費者市場では、効率的なネットでの広告宣伝に加え、各種キャンペーンの実施やイベントへの出展などの施策を実施してまいりましたが、激しい競争環境のもと、新規顧客の獲得に苦戦し、一般消費者市場向けの売上は想定を下回りました。一方、OEM提供につきましては、サービスの浸透により、売上は順調に伸びてまいりました。

利益面につきましては、稼働率の向上による粗利率の上昇や、販売費を適切にコントロールしたことにより、セグメント利益は着実に増加いたしました。

その結果、売上高2,191,910千円（前年同四半期比105.1%）、セグメント利益は494,151千円（前年同四半期比113.0%）となりました。

#### (エアリアルイメージング事業)

当事業は、空中結像技術を用いた新しい画像・映像表現により市場を創造することを目指し、平成23年3月に開始した事業であります。

当事業におきましては、空中結像を可能にするAIプレートの量産化を最重要課題として取り組んでおります。ガラス製のプレートにつきましては、結像品質が安定的に向上し、大型プレートも生産可能となっておりますが、まだ十分なコストダウンは図れておりません。

樹脂製プレートにつきましては、新製法とガラス製の生産方式と同様の手法の双方でトライしております。ガラス製の生産方式と同様の手法による樹脂製プレートにつきましては、小型であり、ガラス製に比べ結像品質は劣りますが、試作品を販売しております。新製法につきましては、技術的課題の解決に向け、複数の製法でトライを継続しており、遅くとも当事業年度中には、新製法か、ガラス製の生産方式と同様の方法かのどちらかに絞りこむ方針であります。

マーケティング面につきましては、平成28年10月に開催した東京デザインウィークのフォローを進めたほか、東京支社ショールームでの展示内容を一新し、営業の増員と合わせ、積極的にデモを実施してまいりました。依然と

して価格が十分にマッチしておらず、限られた用途での売上や小ロットでの売上に留まっておりますが、ネットでのAIプレートの販売や、筐体やセンサー、コンテンツを含めたパッケージでの提供など販売体制を整えてまいりました。また、海外展示会出展に向けた準備を進めてまいりました。

費用面では、海外展示会向け筐体やコンテンツの制作に注力するとともに、量産に向けた研究開発や、積極的な特許申請により費用が増加いたしました。

その結果、売上高は43,960千円（前年同四半期比109.3%）、セグメント損失は91,774千円（前年同四半期は64,457千円の損失）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高は4,029,111千円（前年同四半期比104.6%）となり、利益面につきましては、パーソナルパブリッシングサービス事業におけるOEM供給が順調に伸長していることを主要因として、経常利益は652,619千円（前年同四半期比107.9%）、四半期純利益は444,256千円（前年同四半期比111.7%）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末に比べ188,237千円増加し、5,008,654千円となりました。これは主に、現金及び預金が89,250千円、受取手形及び売掛金が96,613千円それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べ99,696千円減少し、530,348千円となりました。これは主に、買掛金が29,888千円、賞与引当金が66,000千円それぞれ減少したことによるものであります。

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べ287,933千円増加し、4,478,306千円となりました。これは主に、四半期純利益を444,256千円計上した一方で、剰余金の配当による減少167,338千円によるものであります。

## （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年6月10日に発表いたしました平成29年4月期業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期会計期間 (平成29年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,918,143	2,007,393
受取手形及び売掛金	610,639	707,253
商品及び製品	123,936	172,891
仕掛品	13,423	15,736
原材料及び貯蔵品	50,720	57,633
その他	90,046	103,018
貸倒引当金	△3,803	△5,179
流動資産合計	2,803,106	3,058,746
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	514,797	505,644
機械及び装置(純額)	552,201	450,853
土地	432,702	432,702
その他(純額)	126,957	137,741
有形固定資産合計	1,626,659	1,526,942
無形固定資産	196,351	220,232
投資その他の資産	194,300	202,733
固定資産合計	2,017,310	1,949,907
資産合計	4,820,417	5,008,654
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	123,714	93,825
未払法人税等	120,200	109,800
賞与引当金	129,700	63,700
その他	249,796	256,540
流動負債合計	623,410	523,865
固定負債		
退職給付引当金	6,634	6,482
固定負債合計	6,634	6,482
負債合計	630,045	530,348
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	490,300	490,300
資本剰余金	606,585	606,585
利益剰余金	3,400,136	3,675,369
自己株式	△315,115	△310,627
株主資本合計	4,181,905	4,461,626
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,086	10,917
評価・換算差額等合計	2,086	10,917
新株予約権	6,380	5,761
純資産合計	4,190,372	4,478,306
負債純資産合計	4,820,417	5,008,654

## (2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
売上高	3,851,521	4,029,111
売上原価	1,881,927	1,951,139
売上総利益	1,969,593	2,077,972
販売費及び一般管理費	1,367,535	1,428,573
営業利益	602,058	649,399
営業外収益		
受取利息	1,438	807
受取配当金	1,095	1,161
受取手数料	516	418
為替差益	—	51
その他	624	781
営業外収益合計	3,674	3,219
営業外費用		
為替差損	635	—
営業外費用合計	635	—
経常利益	605,096	652,619
特別損失		
固定資産除却損	1,323	103
特別損失合計	1,323	103
税引前四半期純利益	603,772	652,515
法人税等	206,086	208,258
四半期純利益	397,686	444,256

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年7月24日 定時株主総会	普通株式	133,519	8.00	平成27年4月30日	平成27年7月27日	利益剰余金

(注) 平成26年11月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。

## 2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日)

## 1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年7月22日 定時株主総会	普通株式	167,338	10.00	平成28年4月30日	平成28年7月25日	利益剰余金

## 2 基準日が当第3四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (注) 3
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアルイ メージング事 業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	1,723,869	2,085,818	40,225	3,849,913	1,607	—	3,851,521
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	132	—	132	—	△132	—
計	1,723,869	2,085,950	40,225	3,850,046	1,607	△132	3,851,521
セグメント利益 又は損失(△)	557,054	437,119	△64,457	929,716	△16,176	△311,481	602,058

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「ギフトネットコム」サービスであります。

2 セグメント利益の調整額△311,481千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

当第3四半期累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	メモリアル デザイン サービス 事業	パーソナル パブリッシ ングサービ ス事業	エアリアルイ メージング事 業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,793,240	2,191,910	43,960	4,029,111	—	4,029,111
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,793,240	2,191,910	43,960	4,029,111	—	4,029,111
セグメント利益 又は損失(△)	584,951	494,151	△91,774	987,328	△337,928	649,399

(注) 1 セグメント利益の調整額△337,928千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費)であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。